

第 683 回

日本小児科学会東京都地方会講話会 プログラム

日 時：2022年7月23日(土) 午後2時00分

来場開催会場：飯田橋レインボービル7階大会議室
(新宿区市谷船河原町11 TEL 03-3260-4791)

ライブ配信URL：

<https://us06web.zoom.us/j/89507117894?pwd=Rzh5eHZBZmhDSnJRMEToMUpmcG5xdz09>

ミーティングID：895 0711 7894

パスコード：67SghU



*教育講演の聴講単位につきましては、当日来場にて
聴講いただきました方に配布させていただきます。
(オンデマンド配信は実施いたしません。)

参加方法	参加費	教育講演受講単位及び 学術集会参加単位について	備考
来場参加	500円	専門医共通講習 (医療制度と法律) 1単位 (ii 貼付用) 学術集会参加単位 (iv-B貼付用)	*単位を取得するため には教育講演全ての 聴講は必要 (60分)
WEB 参加	無料	単位なし	*オンデマンド配信は いたしません

今年度は来場及びライブ配信での開催とさせていただきます。(新型コロナウイルス感染症の流行状況によっては来場開催を中止する場合がございます。)ライブ配信の詳細、今後の開催に関しましてはホームページやプログラムにてご案内させていただきますのでご確認ください。

なお、昨年度の教育講演は引き続きオンデマンド配信と聴講単位の付与を行います。第679回講話会教育講演のオンデマンド配信のご案内は本プログラムに掲載しておりますのでご確認ください。

東京都地方会
会 長
主 幹 校
事 務 局
当日緊急連絡先

森岡一朗 (日本大学医学部小児科学系小児科学分野 主任教授)
日本大学医学部小児科 担当：岡橋 彩
佐藤企画 佐藤 貴志
佐藤企画 (TEL048-706-7196)

東京都地方会HP：<https://plaza.umin.ac.jp/jpstokyo/>



第683回 日本小児科学会東京都地方会講話会演題 (2022年7月23日)

(1題6分、指定発言5分、追加討論3分以内厳守のこと。○印演者)

プログラム係 杏林大学 小児科 宮田 世羽

第1グループ 14:00~14:30

座長 羽田伊知郎 (立正佼成会附属佼成病院小児科)

1) 尿路感染症を契機に診断された常染色体潜性多発性嚢胞腎 (ARPKD) に伴う高血圧性心筋症の乳児例

○秋庭 崇人¹⁾、田中 登¹⁾、西山 樹¹⁾、佐藤 恵也¹⁾、井福真友美¹⁾、
磯 武史¹⁾、仲川 真由¹⁾、松井こと子¹⁾、福永 英生¹⁾、稀代 雅彦¹⁾、
藤村 友美²⁾、進藤 考洋²⁾、清水 俊明¹⁾

(順天堂大学小児科¹⁾ 国立成育医療研究センター循環器科²⁾)

家族歴のない3か月男児。尿路感染症のため入院したが、心拡大と著明な左室収縮能低下を認め拡張型心筋症が疑われた。高血圧、両側腎腫大と多嚢胞を認め、ARPKDが疑われた。遺伝子解析を実施し疾患関連遺伝子*PKHD1*の病的変異を認め、ARPKDに伴う高血圧性心筋症と診断した。本疾患の乳児例の報告は稀であり、文献の考察を交えて報告する。

指定発言 佐藤 舞 (国立成育医療研究センター腎臓・リウマチ・膠原病科)

2) 「しゃっくり」を主訴に来院したB群溶血性連鎖球菌によるcellulitis-adenitis syndromeの1例

○鮑津 貴史¹⁾、大江俊太郎²⁾、桂 美遥²⁾、高田 啓志²⁾、坂野 沙里²⁾、
前田 直則²⁾、簗生なおみ²⁾、佐藤利永子²⁾、鈴木 絵理²⁾、藤田 尚代²⁾、
山澤 一樹²⁾、三春 晶嗣²⁾

(国立成育医療研究センター¹⁾ 国立病院機構東京医療センター 小児科²⁾)

日齢17の男児。「しゃっくり」を主訴に受診した。哺乳不良と頸部腫脹とを認め、白血球数低値を呈したため重症感染症を疑い、全身管理目的で高度医療機関へ転院した。血液培養検査でB群溶血性連鎖球菌を認めcellulitis-adenitis syndromeと診断された。非典型的な主訴はnot doing wellを表すことがあり、重症感染症を鑑別に挙げる必要がある。

指定発言 多賀谷貴史 (国立成育医療研究センター救急診療科)

第2グループ 14:30~14:55

座長 宮澤 永尚 (杏林大学小児科)

3) 軽微な外傷から代償性ショックに至った血友病Aの乳児の2例

○市川 恵子、高田 啓志、山崎 文登、佐藤 武志、黒沢 拓未、嶋 晴子、
飛弾麻里子、嶋田 博之、高橋 孝雄 (慶應義塾大学小児科)

軽微な外傷による出血から代償性ショックに至った血友病Aの2例。症例1：9か月男児。鼻翼部痙皮を搔破し出血。アドバイドで十分な止血が得られず、出血時間は15時間に及んだ。症例2：未診断の11か月男児。転倒し上唇小帯を受傷。出血から32時間後、顔色不良で受診した。軽微な外傷でも止血が困難な場合には早期受診を促す必要がある

4) 高吸水性樹脂ボール誤飲による十二指腸閉塞の2例

○金丸 ゆり^{1) 5)}、佐々木隆司²⁾、富田 慶一²⁾、植松 悟子²⁾、清水 泰岳³⁾、
藤野 明浩⁴⁾、窪田 満¹⁾、石黒 精⁵⁾

(国立成育医療研究センター総合診療部¹⁾ 同救急診療科²⁾ 同消化器科³⁾ 同外科⁴⁾ 同教育研修センター⁵⁾)

高吸水性樹脂ボールの誤飲による十二指腸閉塞に対し開腹手術や内視鏡的除去を行った2歳、1歳の2例を経験した。誤飲の有無が不確実であり、画像検査を実施する判断に難渋した。本症は早期摘出が必要であり、診断が遅れると腸閉塞および急性膵炎、敗血症などの合併症により重篤な状態になりうるため、誤飲の確認がなくても対応すべきである。

指定発言 野坂 俊介 (国立成育医療研究センター放射線診療部)

休 憩 14:55~15:00

感染症だより 15:00~15:20 (講演:15分+質疑応答:5分)

座長 岩田 敏 (国立がん研究センター中央病院 感染症部)

講師 神谷 元 (国立感染症研究所実地疫学センター)

教育講演 15:20~16:30 (講演:60分+質疑応答:10分)

専門医共通講習 (医療制度と法律) 1単位

座長 窪田 満 (国立成育医療研究センター)

講師 遠藤 明史 (東京医科歯科大学 小児科/臨床試験管理センター)

5) 小児診療に関わる医療保険制度

○遠藤明史 (東京医科歯科大学臨床試験管理センター)

日常診療の各業務はそれぞれの法律・制度によって社会の中で位置づけられている。国民皆保険に代表される医療保険制度は、日本の医療レベルを高水準に保つことに貢献してきた。しかしこれらの制度は成人を中心に構築されているため、小児科医には小児診療に合わせて適応させる取り組みが求められる。本講演では、小児科学会社会保険委員会での55年通知の活用や適応外薬を使用できるようにする取り組みなどを中心に紹介させて頂きたい。

休 憩 16:30~16:35

第3グループ 16:35~16:55

座長 高橋 昌兵 (立正佼成会附属佼成病院小児科)

6) 腹痛、嘔吐で発症した遅発性横隔膜ヘルニアの1例

○長谷川愛莉¹⁾、久保田 淳¹⁾、松本 怜²⁾、樋渡えりか²⁾、伊藤 怜司²⁾、
平野 大志²⁾、杉原 哲郎³⁾、高島 典子¹⁾、大石 公彦²⁾

(東京慈恵会医科大学葛飾医療センター小児科¹⁾ 同大学小児科²⁾ 同大学小児外科³⁾)

3歳男児。繰り返す嘔吐、腹痛を主訴に来院した。胸腹部X線検査で左胸腔内に腸管ガス像を認め、横隔膜ヘルニアと診断し、緊急で左Bochdalek孔ヘルニアの胸腔鏡下横隔膜縫縮術を施行した。遅発性横隔膜ヘルニアの発症は稀であるが、呼吸器症状や原因不明の腹痛、嘔吐などの消化器症状の場合には緊急性の高い疾患として鑑別に加える必要がある。

7) 消化器症状を伴わず炎症反応の遷延を契機に診断に至った腸回転異常症の3か月男児例

○船山 裕子¹⁾、池田 翔¹⁾、高井 詩織¹⁾、山口 洋平¹⁾、石井 卓¹⁾、
細川 奨¹⁾、水野 裕貴²⁾、岡本健太郎²⁾、森尾 友宏¹⁾

(東京医科歯科大学小児科¹⁾ 同 大学小児外科²⁾)

生後3か月の男児。心臓手術の待機入院中、炎症反応高値が遷延したが消化器症状は認めなかった。原因精査の消化管造影で腸回転異常症、腸管狭窄の診断となり、Ladd手術と腸管切除を施行した。切除腸管ではうっ滞性腸炎の所見を認めた。原因不目の炎症反応上昇を認める乳児では消化器症状が目立たなくとも消化管精査が必要である。

第4グループ 16:55~17:30

座長 瀧浦 俊彦 (杏林大学小児科)

8) DKAを契機にQT延長症候群と中枢性甲状腺機能低下症の合併が明らかとなった1型糖尿病の女児例

○多村 公晃、竹内 博一、藤賀由梨香、馬場 俊輔、木村 妙、宮田 市郎、
大石 公彦

(東京慈恵会医科大学小児科)

2歳女児。DKAによる入院を契機に1型糖尿病だけでなく、QT延長症候群と中枢性甲状腺機能低下症も伴っていることが判明した。これまでに1型糖尿病にQT延長症候群あるいは中枢性甲状腺機能低下症を合併した報告例は散見されるが、これら3疾患を同時に診断し得た症例は極めて稀である。若干の文献的考察を加え報告する。

9) COVID-19流行下で発症した小児の神経性やせ症に性的虐待が疑われた1例

○黒木 興心、金澤 剛二、下澤 克宜、高砂 聡志、田中 瑞恵、兼重 昌夫、
関 純子、赤松 智久、瓜生 英子、山中 純子、望月 慎史、水上 愛弓、
五石 圭司、七野 浩之

(国立国際医療研究センター病院)

11歳女児。COVID-19第1波の期間に神経性やせ症を発症し、治療に難渋した。食行動異常の背景に父からの性的虐待を疑い、多職種で家族支援をすることで経口栄養の摂取量が劇的に増え、抑うつ的な症状が軽快し退院に至った。小児科診療では、様々な体調不良の背景に虐待などの心理社会的要因も疑いながら診療にあたる必要がある。

指定発言 宇佐美政英 (国立国際医療研究センター国府台病院 児童精神科)

10) 視神経炎を呈した抗MOG抗体関連疾患の1例

○中野英太郎、森地振一郎、岡田このみ、中澤はる香、林 佳奈子、竹下 美佳、
呉 宗憲、小穴 信吾、山中 岳

(東京医科大学 小児科)

11歳男児。眼痛と視力低下で受診。既往にADHDあり。眼底検査と脳MRI検査から視神経炎と診断し、ステロイドパルス療法を行い視力は回復した。血液検査で抗MOG抗体が陽性となり、同抗体関連疾患の確定診断を得た。現在再発はないが、本疾患は視力予後が良好なものステロイド依存性に再発寛解を繰り返す症例もあり今後の経過に注意が必要である。

【次回以降開催予定日】

- 2022年9月10日(土) (来場 (アットビジネスセンター八重洲)+ライブ配信の予定)
- 2022年10月8日(土) (来場 (アットビジネスセンター八重洲)+ライブ配信の予定)
- 2022年12月10日(土) (来場 (アットビジネスセンター八重洲)+ライブ配信の予定)

【運営委員会だより】

- 2022年6月の運営委員会は来場+Webで審議を行った。今年度の講話会は来場+Live配信で開催する事となった。
- 第683回講話会のプログラム編成について承認された。
- 第683回、684回講話会の教育講演および感染症だよりについて、講師と座長が確認された。
- 2022年度第1回幹事会を第683回講話会(2022年7月23日)開催後に同会場にて来場開催することとなった。
- 2022年度年会費に関しては別途ご案内の上お願いすることとなった。
新HPからクレジット入金、金融機関への送金のどちらかでご対応ください。講話会会場でのお支払いにも対応いたします。
- 日本小児科学会と東京都地方会の共催でJPLSを11月20日曜日に開催することが決定した。
日本大学医学部リサーチセンターを会場とし、講師や公募は日本小児科学会が行う。
- 講話会開催形態、プログラムのペーパーレス化、HP改定に関し、検討された。

【演題の申し込みについてのお願い】

- 動画が含まれる場合には、その旨を明示して下さい。
- 指定発言も設定可能です。(共同演者から指定発言は頂けません)
- 演題の締切は次のようになります。
- 運営委員会にて抄録の修正をさせて頂く事もございますので、原則としてご了承ください。

講話会開催月	演題締切	講話会開催月	演題締切	講話会開催月	演題締切
1月	前年 11月30日	2月	前年 12月25日	3月	1月31日
5月	2月28日	6月	4月22日	7月	5月31日
9月	6月30日	10月	8月31日	12月	9月30日

申込演題が規定数を上回った場合、さらに1回先のご発表となることがありますのでご了承ください。その場合、事務局よりご連絡します。

【座長・演者の先生方へのお願い】

- 2022年5月以降の講話会は来場およびライブ配信での開催となりますので、座長・演者の先生は必ず会場までお越しください。

【演者の先生方へのお願い】

- 一次抄録は160字以内に。また、二次抄録は日本小児科学会雑誌に掲載されますので規定の200字以内を厳守くださるようお願い致します(原稿はワード入力にてe-mailにて事務局へ、ご発表後月末までにお送り下さい)。
- 参加した会員に発表の意味をより強く、明確に伝えるために、最後(または適切な時期)にTake Home Message(この発表から学ぶこと)を手短な一文で記したスライドを付け加えていただくようお願い致します。

【会員登録事項の変更届についてのお願い】

- 自宅、勤務先の住所(プログラム送付先)等の変更または、改姓があった場合は、速やかに東京都地方会事務局までご連絡下さい。
- 退会される場合も必ずご連絡下さい。お届けがない場合は継続となりますので次年度の年会費の請求を致します。

【事務局よりご連絡】

- 来場での参加費は500円となりますが、学術集会の参加単位(iv-B貼付用)と小児科領域講習の聴講単位(iii貼付用)は、発行いたします。Live Zoomでの参加の場合には参加費は無料ですが両単位とも発行されません。
- 2022年3月までの教育講演はオンデマンド配信で単位が取得できる様に準備ができましたらホームページ等でご案内させていただきます。

Presentation について

発表はComputer Presentation (Windowsのみ可、Macは不可) のみで受け付けます。MacのPC持ち込みによる発表はご遠慮ください。Powerpoint2000以上で作成、Font文字は Powerpoint備え付けのみ。CD-RもしくはUSBメモリーにて、第1、第2グループの発表者は午後1時30分までに、第3グループ以降の発表者は午後3時までにスライド受付まで持参してください。機械操作は当方で行います。あらかじめウイルスcheckをお願いします。

動画について

動画の発表にはトラブルが多いため、下記の方針をご理解いただきますようお願い致します。

- ① 一般演題での動画の使用はできる限りお控えいただくようお願い致します。
- ② 動画の使用が不可避と考えられる場合、ファイルのセーブ法などの注意事項がありますので、学会事務局に必ず事前にご連絡下さい。
- ③ ②の場合にも、動画の映写にトラブルがあったときに備え、静止画像のみで構成された代替パワーポイントファイルをご用意下さい。当日、動画の映写が不可能と判断された場合には、代替パワーポイントファイルを用いて、時間通りに学会を進行させていただきますことをご了承ください。

第 679 回東京都地方会講話会教育講演 オンデマンド配信のご案内

オンデマンドご参加頂くには学会ホームページの講話会プログラム(会員専用)にアクセスして頂きますようお願い致します。アクセスするには全会員共通となりますが、ユーザー名：tokyoとPWD：jps-tが必要となります。ホームページの『開催のおしらせ』に参加URLを掲載致します。

2022年2月19日(土)に行われました第679回東京都地方会講話会教育講演の小児科領域講習単位は、講演視聴と設問解答後、合格者には受講修了証明書がダウンロード頂けるようになります。

演題名 夜尿症診療2022～診療ガイドライン2021をふまえて～

演 者 藤永周一郎先生 (埼玉県立小児医療センター 腎臓科)

視 聴 方 法 下記グーグルフォームよりご登録をお願い致します。
(後日、視聴用URLをお知らせいたします。)

<https://forms.gle/BHRnVDgPijJ3u6Nv7>

前登録期間 2022年7月19日(火)～7月26日(火)

前登録された方には後日参加URLとパスワードをお知らせ致します。
視聴期間は2022年8月2日(火)12:00～8月8日(月)12:00とさせていただきます。
何卒よろしくお願い致します。

以上

【お問い合わせ】

日本小児科学会東京都地方会事務局

TEL：048-706-7196

e-mail：jpstokyo-office@ab.auone-net.jp